

答 辞

寒さも緩み、春の訪れが実感できる季節となりました。

本日は、様々な行事が自粛される中、西田学長をはじめ、諸先生方ご臨席の下、このような式典をご用意していただき、誠にありがとうございます。本日出席がかなわない卒業生を代表して心より感謝申し上げます。

思えばJ年前、期待と不安を抱きながら、入学式に臨んだこと、また入学当初は講義の選択や、時間割の編成など、突如直面した自由に困惑したこと、つい先日のことのようにです。

その後の学生生活では、後輩の手本であり続けた先輩方や、時に熱く、互いの将来について語り合った友にも出会い、生涯の絆を築くことが出来ました。

また授業や課題を通じ、多くの知識や経験も習得出来ました。中でも、私が所属したゼミでは、学生の将来のキャリアや人生の糧になるような指導を常に心掛けて下さった、真の意味で優しい指導教員の下、多くの体験が出来ました。

特に、約2年半の歳月を費やして、自ら路肩を整備し、景観の整備が観光客の観光地選択に与える影響を評価し、その結果を学会の全国大会で報告した"*Blooming Project*"は、貴重な体験でした。

クラウドファンディングによる資金調達、300個のプランターに花の苗を植えた豊見城総合運動場での作業など、プロジェクトは文字通りゼロからスタートしました。しかし、やがて多くの個人、ボランティア、マスコミ、企業の皆さま支援の下、実現の日を迎えることが出来ました。

ファンドの不調や、自身の交換留学による中断など、途中様々な困難もありました。しかし、学生の中にモノやヒトの想いを受け止め、それをひとつの目標に昇華させる体験を積めたことは、社会人としての日々においても、とても大きな糧となると確信しています。

同期の皆も、在学中に多かれ少なかれ同様の経験をしたものと思いますが、このように充実した大学生活を送れたのも、ご支援いただいた大学職員、関係者の皆様、そして先生方のお陰であり、改めて感謝の念を強くしております。

もちろん、臨席はかなわなかったものの、これまで最も近くで、私たちを支えてくれた家族にも、卒業生一同に成り代わり、心からの謝意を表したいと思います。有難うございました。

素晴らしい出会いと、実り多き時間をもたらしてくれた本学を旅立つにあたり、名残惜しさを抱かずにはいられませんが、数日後、私たちは新しい環境でそれぞれの道を歩み始めます。今後は、大学生活で培った知識や技術、そして建学の精神を活かし、山積する社会問題の解決に寄与し得るよう、弛みない挑戦と成長を続けて行く所存です。

本日ご臨席に対し、卒業生を代表して、改めて深く御礼申し上げさせて頂くと同時に、我らが琉球大学の更なる発展を願い、答辞とさせていただきます。

令和2年3月24日

卒業生代表

観光産業科学部 観光科学科

大屋 達義